

のアルバム

▼2月12日 市役所



食べてね！市長さん

野洲優愛保育園モンチの園児13人（4歳児・5歳児）が朝から頑張ってお菓子とメッセージを市長へプレゼントしました。

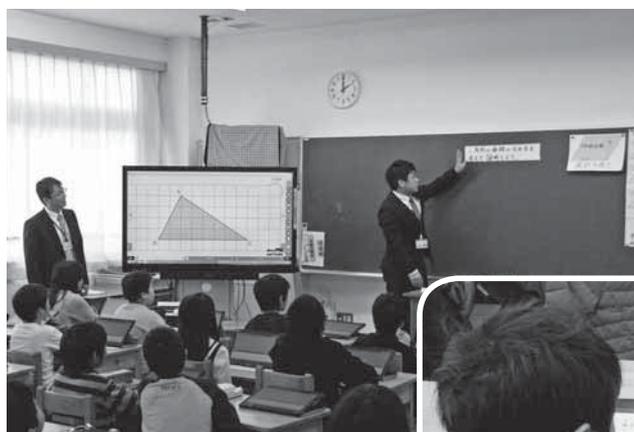
市長からお礼のメッセージカードを受け取った園児たちは、嬉しそうな表情で元気いっぱいでした。

お菓子は、シューマイの皮にチーズとウィンナーを巻きホットプレートで焼いたものです。



園児のメッセージ

▼1月19日 三上小学校



災害に備え活用します

滋賀県電気工事工業組合（鹿野敏夫理事長）から災害時に市民の安心安全を確保するために活用してほしいとLEDライト（20個）が寄贈されました。

市と同組合は、平成20年8月に「災害時における電機設備の応急復旧の応援に関する協定」を結んでおり、災害時には公共施設の電気設備の応急復旧に取り組んでいただきます。



▼2月1日 市役所



情報技術の活用による授業改善

今年度、子どもたちが元気に生き生きと学ぶ学校づくりを進めるため、小・中学校各1校をモデル校に指定し、情報技術を活用した授業改善に取り組んでいます。

1月19日には、モデル校の三上小学校で公開授業が行われました。算数科の授業中、子どもたちは、一人1台のタブレットを操作しながら意欲的に学習活動に取り組みました。

今後は、学習指導における情報技術活用の効果を踏まえ、全ての小・中学校に新たな情報機器を整備していく計画です。

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(138)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

ろうのう おおかり えもん 近江の老農 大岡利右衛門 ①

(139回に続く)

「老農^{ろうのう}」とは農業指導者のことです。江戸時代の文献上でも確認できる言葉ですが、おもに、明治時代に活躍した農業指導者のことをいいます。彼らは、農書に基づいた在来農学を研究し、これに自らの体験を加え、高い農業技術を身につけていました。とくに、明治10年代から20年代は、「老農時代」と呼ばれ、彼らが活躍した時代とされています。

本市においては、比留田出身の大岡利右衛門（1832～1912）が「老農」として注目される人物です。明治31年（1898）に発刊された『明治忠孝節義伝^{ちゅうこうせつぎでん}』によると、大工を生業とし、農業も行っていた父・宇八と、母・浪の子として利右衛門は天保3年（1832）1月4日に誕生したとあります。幼い頃より農業を好む人物であったと伝えられており、安政4年（1857）に分家した際、兄の久吉から若干の田んぼをもらったことで、農業に専心し、工夫実験に勤しんだとされています。大岡家に伝来する明治43年（1910）の「大岡利右衛門事跡調書」（以下、「事跡調書」）によると、利右衛門は、稲種子の交換・選択を重視し、良種を求めて各地を巡ったとあります。また、試作の結果、良い品種と判断したものは、広く分与したとあり、京都府東北部では、利右衛門が選択・分与した稲種「新大岡」が大部分を占めていたと記されています。

明治14年（1881）には、滋賀県によって「野洲郡北部試作人」に任命されており、試作人としての活躍を、「其ノ熱心、県下、其右ニ出ル者ナシ」と「事跡調書」は伝えています。

その他にも、利右衛門が取り組んだ農事改良事業として、田の苗を規則正しく植える「正条植え」を野洲郡に広めたことがあげられます。これらの功績により、明治29年（1896）に緑綬褒章を受章しています。

本年はこの緑綬褒章受章から120年を迎えます。博物館では、これを記念して、3月19日（土）～5月29日（日）にかけてテーマ展「近江の老農 大岡利右衛門」を開催します。本展では、「老農」として農事改良に生涯を捧げた大岡利右衛門を紹介しますので、ぜひご観覧ください。



(博物館学芸員 齊藤慶一)

大岡利右衛門（大岡家蔵）



100歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた佐々木喜洋子さん（永原）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正5年2月5日生まれの喜洋子さんは、ご家族に囲まれ「みんなに大事にしてもらっています」と感謝しておられました。

これからも健やかに過ごしてください。

▼2月16日 永原



美味しかったよ

三上幼稚園で園児が民生委員児童委員の皆さんと一緒に正月遊び（コマ回しなど）をし、ミニ会食を行いました。

5歳児の園児たちが、たで寿司の作り方を見学し、温かいご飯の量にビックリしていました。

この日は、民生委員児童委員さんに作っていたたたで寿司と、南桜の桜つみそと地元の野菜を使ったお味噌汁をみんなで一緒に食べ楽しい時間を過ごしました。

▼1月8日 三上幼稚園

